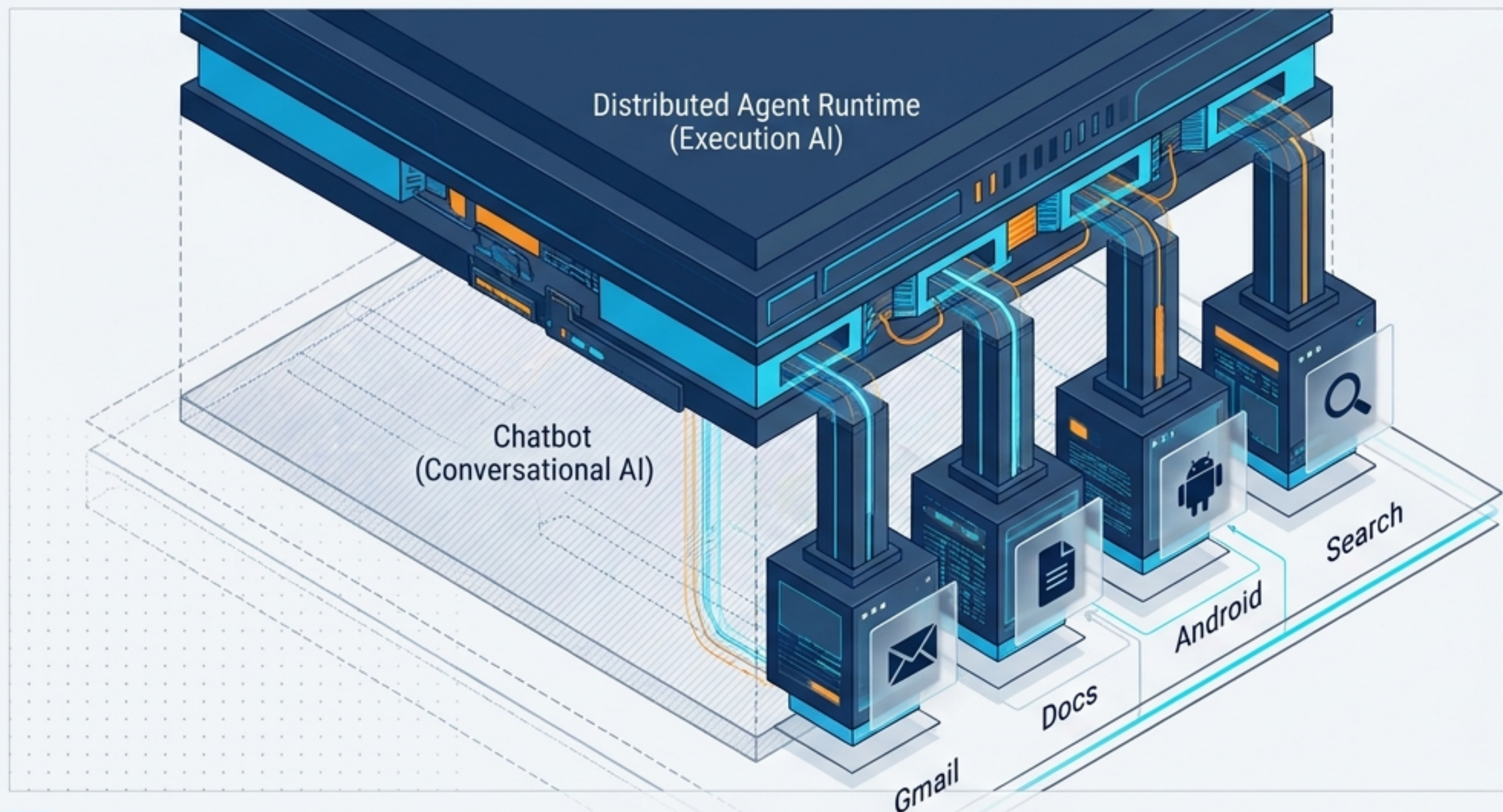


Google I/O 2026が示した「実行するAI」への パラダイムシフト

エージェント・エコシステムの設計図と、市場が突きつける「信頼」のジレンマ



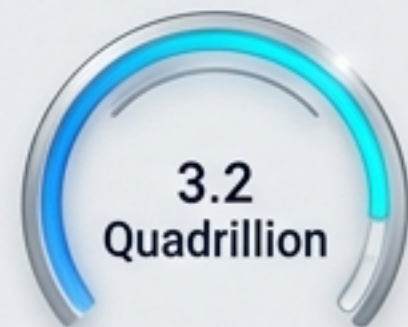
チャットボットの終焉と「分散型エージェント・ランタイム」の幕開け



月間AI Modeユーザー数



Geminiアプリ利用者数（前年前年比倍増）



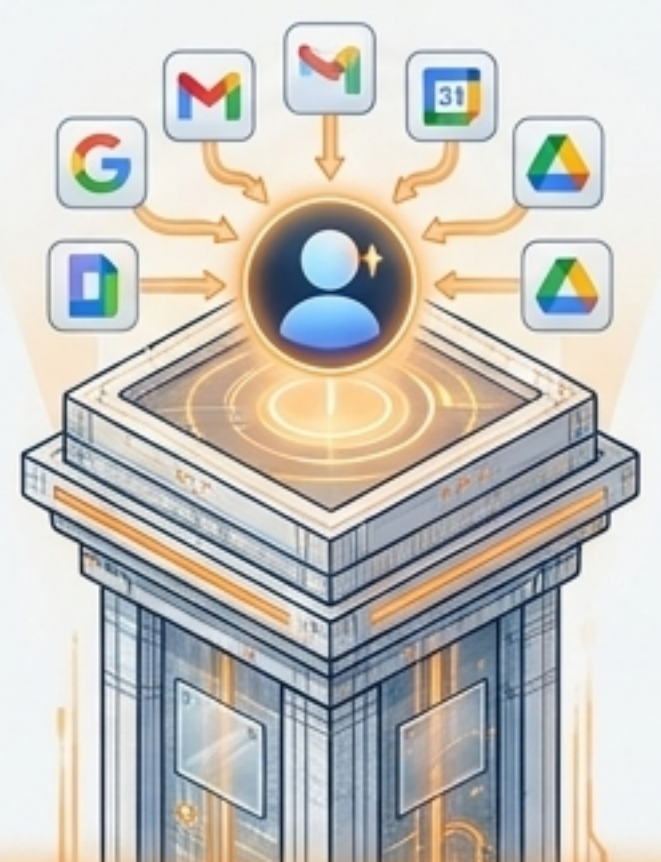
全AIサーフェスの月間処理トークン数

Google I/O 2026の真の狙いは、ChatGPTに対抗する「最も賢いモデル」を発表することではありません。Googleアカウント、Workspace、Search、Android、Cloudという巨大な既存インフラを束ね、ワークフロー全体を自律的に進める「実行レイヤー（agentic Gemini era）」を完成させることです。

エージェント・スタックを構成する3つの柱



Pillar 1: 実行エンジン「Gemini 3.5 Flash」
- 高速な多段推論とオーケストレーション基盤



Pillar 2: 究極の利便性「Gemini Spark」
- Googleデータに常時直結した24/7パーソナルエージェント



Pillar 3: 創作インフラ「Gemini Omni」
- Any-to-Anyの統合メディア生成

発表された製品は個別に完結していません。これらは単一の基盤の上でネットワークのように結びつき、世界最大の「タスク実行エコシステム」を形成しています。

Gemini 3.5 Flash: 「最速のエージェント実行」と「総コスト」のトレードオフ

Google公式の主張 (Action-Oriented)

Terminal-Bench 2.1: 76.2% (ターミナル操作に強い)



MCP Atlas: 83.6% (多段ツール利用の優位性)



CharXiv Reasoning: 84.2% (マルチモーダル推論)



Output: 長期的なエージェントタスクとコーディング支援に特化

開発者の現実的評価 (Appwrite / The Decoder)



速度メーター: 激速
(Appwrite Arena トップ層:
278~280+ tokens/s)



コスト警告: 評価コスト \$1,552

Insight: Gemini 3 Flash比で総運用コストが5.5倍、3.1 Pro比で75%高。

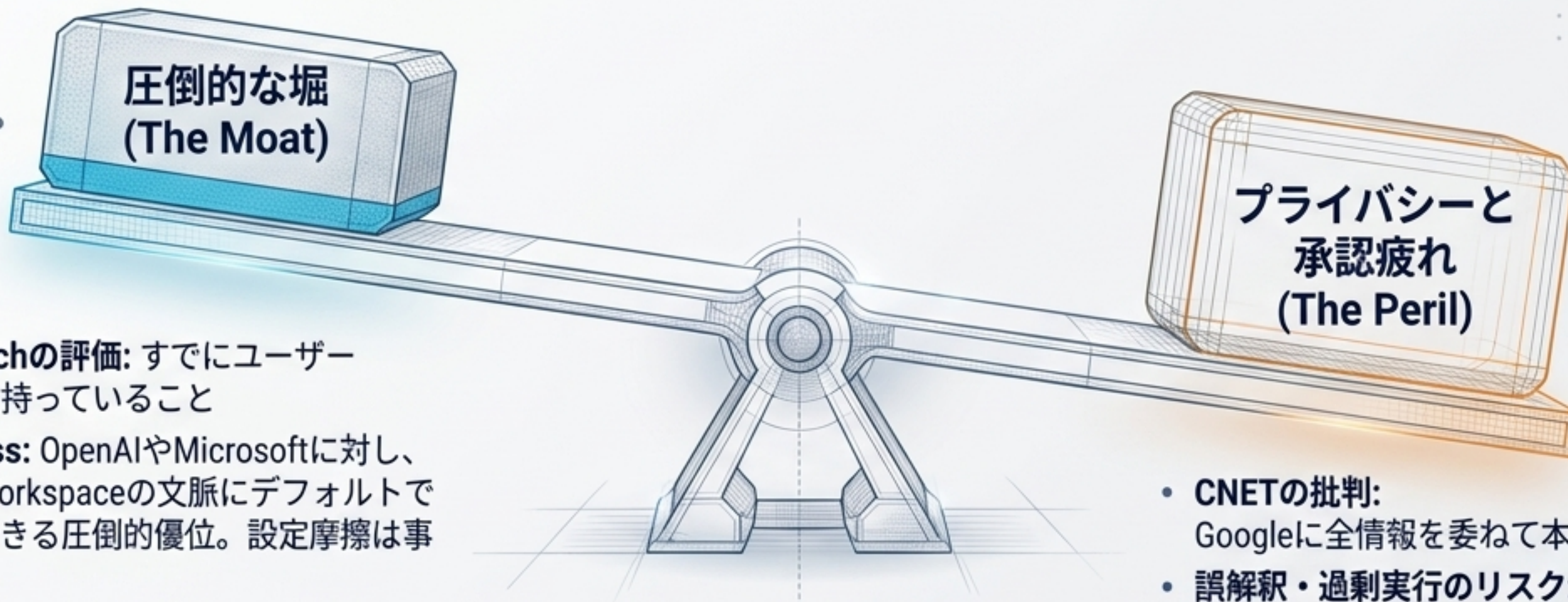
「Flash = 安価」という前提は崩れました。エージェントタスクは多段推論によるトークン消費が激しく、単体の知能よりも「Google環境での実行速度」を金で買うモデルと位置づけるべきです。

Gemini Spark: 摩擦ゼロで稼働する「24/7 パーソナルエージェント」



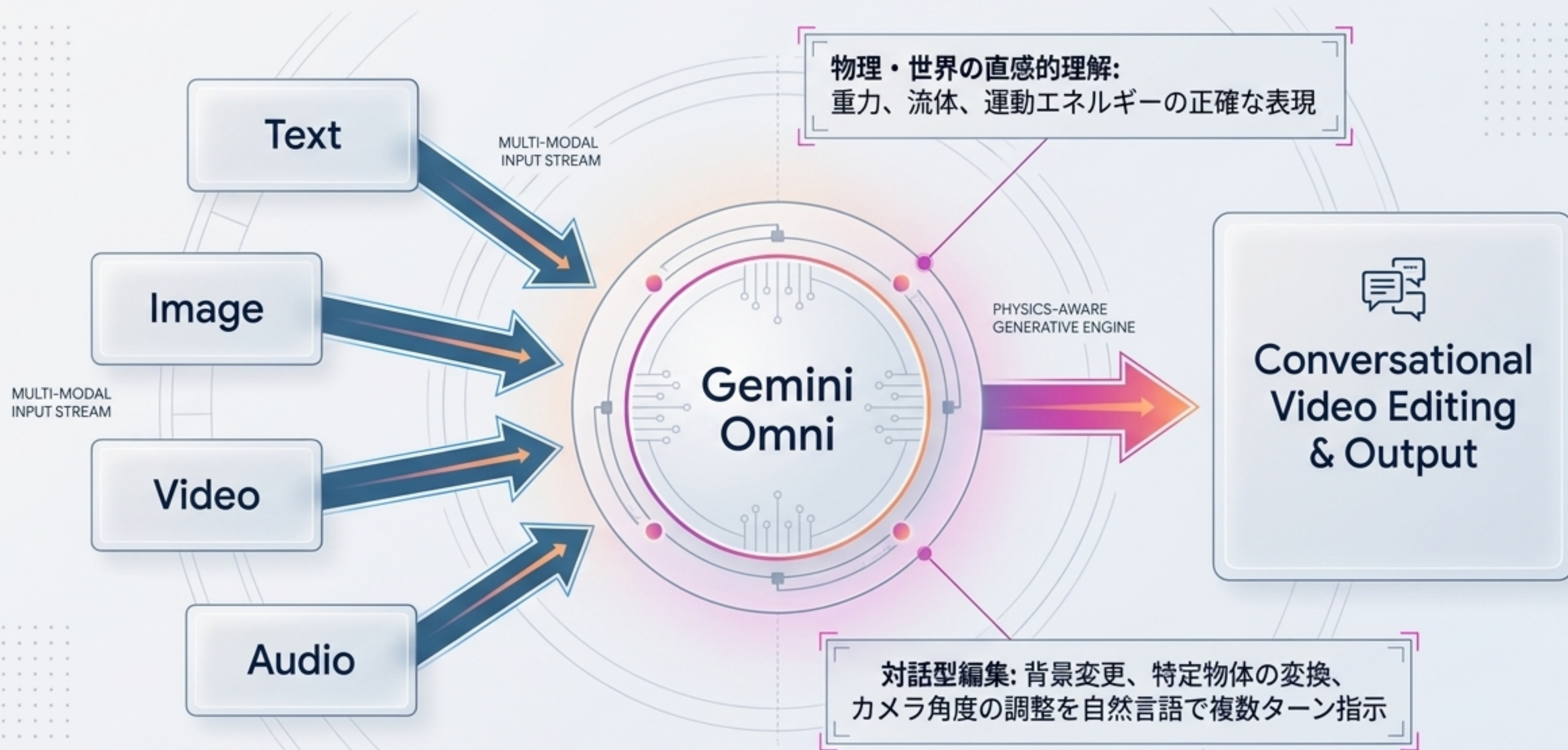
従来のチャットボットが苦手とした「複数アプリ横断」「長期監視」「定期実行」「文脈保持」を、Google Cloud上でシームレスに自動実行します。

Sparkが抱える光と影： 最大の優位性は、最大の不安と表裏一体である



Sparkの成否はモデルの賢さではなく、
「承認設計のUX」と「ユーザーのデータ提供への受容度」にかかっています。

Gemini Omni: 動画生成から「対話型メディア統合インフラ」への進化



単なる「動画を生成するAI」から、あらゆる入力参照を統合し、自然言語でメディアを彫刻するように編集できる「Any-input to Any-output」のインフラが完成しました。

クリエイティブの解放と「AIアバター」がもたらす不気味の谷

民主化される創作 (Creative Freedom)

- **用途:** クリエイター、教育、SNS動画での圧倒的効率化。
- **SynthID透かしの標準化:** 全ての生成物に埋め込み、Search/Chromeで検証可能に。プラットフォーム統治の意志。



倫理的危機 (Ethical Peril)

- **WIRED記者の体験:** 不気味なほど自分らしい体験 (The Result Was Unnervingly Me)
- **リスク:** 非同意ディープフェイク、完璧すぎるデジタルクローンによる人格複製。動画が「証拠」という社会的前提の崩壊。



Omniは専門家向けツールを日常のインフラに変えますが、透かし回避や「検証しないユーザー習慣」という脆弱性が残されています。

エージェント・モデル別「中核価値とリスク」診断マトリクス

	中核となる価値 (Core Value)	Googleの圧倒的優位性 (Google's Moat)	最大の懸念・ボトルネック (The Bottleneck)
Gemini 3.5 Flash	価値=高速な多段推論・実行	優位性=Google開発環境との深い統合	懸念=エージェントタスクでの想定以上のトークン総コスト・一部推論精度
Gemini Spark	価値=常時稼働のタスク完了主体	優位性=Workspaceデータ (Gmail等) への初期アクセス	懸念=過剰なデータアクセス懸念と承認設計のUX崩壊
Gemini Omni	価値=Any-to-Anyの統合メディア生成	優位性=YouTube/Google Flowへのシームレスな配布面	懸念=非同意ディープフェイク対策と社会の受容度

「検索窓」と「開発環境」の再定義：実行面への完全移行

AI Search - From Links to Agents



- 検索ボックスが「テキスト」だけでなく画像・動画・Chromeタブを受容。
- 外部サイトへ送るのではなく、検索結果上に「ミニアプリ」「トラッカー」「ダッシュボード」をその場で生成。
- Quote: Google Search as you know it is over. (TechCrunch)

Antigravity 2.0 - Work Orchestration



- 単なる「コード補完 (AI code completion)」の終焉。
- エージェントが計画・実行・検証を行う「ワーク・オーケストレーション・レイヤー」への進化。
- ログではなくブラウザ録画やスクリーンショットで人間が検証。

市場・アナリスト反応スペクトラム：技術評価と収益化の温度差



投資家はGoogleが「技術的主導権を取り戻した」と歓喜する一方、現場の開発者とメディアは「高コスト化と倫理的代償」に強い警戒感を示しています。

The Ultimate Trade-off: 「摩擦ゼロの利便性」が突きつける究極の代償



結論：次のAI戦争の勝敗は「知能指数 (IQ)」ではなく「信頼 (Trust)」で決まる



1. 統合力の証明

Googleはモデル企業ではなく、「AI実行インフラ企業」としての圧倒的強さを証明した。

2. コストとUXの壁

Gemini 3.5 Flashの実用コストと、Sparkの「承認画面の摩擦」をどう乗り越えるかが直近の課題。

3. 究極の問い

エージェント・スタックの真の争点は、モデルの性能差ではなく、「日常生活と業務をどこまでGoogleに委ねられるか」という社会の受容度にある。

もはや問うべきはAIにできるかどうかではない。私たちがそれを委ねるほど信頼できるかである